

第1部で基礎となる身体の使い方の講習を行った藤猪先生



第2部で上野先生がコンディショニングについて講習



山村先生は第3部で傷害の治療・リハビリについて講習



第4部では船越先生が心理面からの指導法について講習

大阪で指導者講習会開催



「柔道の輪を世界平和に繋げる会」のシンボルマーク

「柔道の輪を世界平和に繋げる会 (WPJ)」は9月25日、昨年引き続き国際東洋医療柔整学院・鍼灸学院 (大阪府岸和田市)において、指導者講習会を開催した。日頃、中学校・高校・警察署・町道場などで指導にあたる方々が、地元・近畿地区からだけでなく、香川県や愛知県、山口県から多数参加された講習会の模様を報告する。

記/榊原孝文 (柔道の輪を世界平和に繋げる会事務局長)

本会 (WPJ) の活動は、日本伝講道館柔道の創始者・嘉納治五郎師範の柔道哲学「教育・技法・歴史等」を研究し実践することで、柔道修行を通じて自己啓発と社会貢献の実行を目指しています。

本会の講習会では技術面においては、個々の技の掛け方の指導ではなく、基礎、基本となる身体の使い方の指導に重点を置いています。最近の国際大会で見られるように、各国選手はそれぞれ、幼い頃から慣れ親しんだ民族格闘技の技法を柔道の技に応用して試合に臨むため、日本の選手はイメージできない技への対応に苦しめられています。その打開策の一つとしても身体の使い方の重要性を説きます。しかし、具体的な技の掛け方については、それぞれの指導者、選手の感性を活かして型にはまらない個性的なスタイルの確立が不可欠と考えています。また一方で、現在は競技が先行し勝敗だけにこだ

わり、人格形成という大切な部分が軽んじられているように見えます。この点をもう一度見直し「柔道は心身ともに研鑽できる素晴らしいもの」と多くの方に感じて頂くためのテーマも考え行っています。

昨年行ったこの学院における講習会では、選手の安全面を考慮した「青少年の骨・軟骨・靭帯損傷その他」と、「世界柔道競技に見られる日本柔道と異種 (民族) 格闘技・スポーツの技術的影響について」がテーマでした。柔術を起源としての活法 (治療法) を学ぶ柔道整復師を養成する学院を会場にして、嘉納師範が伝え残そうとされた講道館柔道への原点回帰を考える講習会を開催することは、とても意味のあることと思います。回を重ねるごとに充実した講習会となるよう、会員が力を合わせて頑張っています。

本会の活動は「柔道の輪を」で検索してホームページをご覧ください。

講師及び講演内容

●第1部

藤猪省太先生 (天理大教授・柔道部部长)
基礎、基本となる骨格の使い方・身体の軸の捉え方・目線の置き方

●第2部

上野雅洋先生 (国際東洋医療鍼灸学院 専科長)
コンディショニングと鍼灸

●第3部

山村徳三先生 (明治鍼灸大講師)
柔道【スポーツ】傷害の治療・リハビリトレーニングについて

●第4部

船越正康先生 (全日本柔道連盟医学科学特別委員)
心理面からみた指導法について・選手の性格特性の理解と指導者の指導、助言方法